



元気っ子

No 311 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

6月も終わり、あっという間に一年の半分が過ぎました。最近ではセミの鳴き声も聞こえ始め、いよいよ夏本番が近づいてきました。熱中症等に十分気を付けながら、今月も子どもたちとの生活を楽しく過ごそうと思います。

先日、以上児の主活動のひとつを担当することがありました。虫や生き物が好きな子どもが多いこともあったので、ながさわ保育園周辺で見られるカマキリについての雑学や特徴を、対話やクイズ形式でやってみました。今回、紹介した4種類のカマキリは8月～9月くらいになると見つけやすくなるので、是非、ご家庭でもお子さんと探しに行ってみてください。もしご興味のある方がいらっしゃいましたら園長までお声掛け下さい。

また見つけやすい時期になりましたら、保育園の主活動で実際に見つけに行ってみようと思うのですが、子どもたちには自然を通じた主体的な実体験を通じて、不思議を感じ、感動を味わい、考えることを学んでもらえたらと思います。

最近の教育の方向性を示す例に、今までは「1192年に源頼朝は鎌倉に幕府を開いた」という史実を暗記することだけに重点が置かれていましたが、これからは「なぜ源頼朝は鎌倉に幕府を開いたのか」を考察することに重点が置かれているということがあります。子どもたちにも「なぜこのオオカマキリはこの場所にいたのか」を考えたり、カマキリの居場所を推測することのトライ＆エラーを繰り返しながら見つけたときの感動を是非味わってもらいたいと思います。

今の子どもたちが大人になった時、社会を生き抜くために求められる能力の一つに「empathy(共感力)」というものがあります。最近、この言葉は多方面で見聞きすることが多いのですが、学校教育においても2022年から新科目として始まった「公共」の中心的な考え方がこの「empathy(共感力)」だとされています。

少子高齢化が進み、大量生産大量消費の時代が終わり、これからの子どもたちは「新しい価値やサービスの創造」が産業の課題になると言われています。そのためには人との民主的な「対話」を通して様々な課題を解決していかなくてはならなくなり、そのために必要なのが、「自分と違う立場の人や自分と違う意見を持つ人の気持ちを想像する力」つまり「empathy(共感力)」だと言われています。そしてこの能力は、自然と湧き出る感情「sympathy(同情)」とは違って、学ぶことができる能力とされています。方法は、絵本や演劇など様々ですが、保育においては「お手伝い保育」が注目を集めています。以上児の子どもが0・1歳児のクラスのお手伝い(お世話)をする場合、言葉の十分に出ない子どもの感情や意志を相手の立場になって想像する必要があります。この経験が「empathy(共感力)」を育むとされています。ながさわ保育園においても最近、徐々にこの「お手伝い保育」の場面が見られるようになってきました。その様子についてはホームページの「クラスの様子」や「主任コラム」等でもお伝えできると思います。どうぞ楽しみにしててください。